

林京香さん感動「スピーチ」

林京香さんが「ともに学ぶ」学校生活に注目してきた。先日、京香さんが学校の日直でスピーチしたことを聞いた。お母さんと時間をかけて話しあい、「読み上げ機能」を使って報告したという。京香さんの思いが伝わる感動「スピーチ」を紹介したい。

写真は順に朝日新聞 11 月 17 日朝刊、中日新聞 12 月 2 日朝刊、そして 11 月 11 日の「堀田っ子フェスティバル」で撮ったものである。

最近、名古屋城を、新しく作りかえることが、テレビや新聞で取り上げられています。みんなは、知っていますか？

でも、新しいお城にはエレベーターを「つけない」ということが問題となっています。私のように車いすに乗っていたり、ベビーカーや、足の不自由な人が、名古屋城へ入るためには、エレベーターが必要です。

河村市長は「いろんな人が、名古屋を訪れてほしい」という思いから、名古屋城を新しく作る計画を立てました。

しかし、エレベーターがないと「はいりたくても、はいれない」。エレベーターを付けないことに反対する声がたくさん上がってきました。

赤ちゃんや、お年寄りや、私のように車いすを使う人も、だれもが利用できる建物をつくるのが、世界的に重視されてきています。それを「ユニバーサルデザイン」と、いいます。

空港や、地下鉄、そして、カインズホームもユニバーサルデザインの建物です。カインズホームではエスカレーターに段差がない。まっすぐなエスカレーターとエレベーターがあります。車いす利用者は階段やエスカレーターは使えません。「エレベーターしか」乗れないからです。

だから、名古屋城にもエレベーターをつけてほしいという声が上がっています。そうした声から、もう一度、お城にエレベーターをつけるための話し合いが、障害のある人の意見を聞いて行われることになったそうです。みんなと同じように「はいりたいのに、はいれない」という人の気持ちに私はすごく共感しました。



なぜなら、先日の堀田っ子フェスティバルで巨大迷路に、はいりたくても、はいれないことがあったからです。6年生の巨大迷路に、私がどうやって参加したか、知っている人はいますか？私は、はいることができないので、先生が動画で撮って、iPadで見せてくれました。

みんなが私と同じように自分一人だけ、はいれない立場だったら、どう感じますか？

私はさみしかったです。車いすのお母さんや杖をついたお年寄りも、はいれなかったそうです。地域の人も来るイベントだったので、どんな人でも楽しめるようなユニバーサルデザインの巨大迷路だと、もっと良かったなと思います。私の妹は、「簡単コース」もあったら良かったね！と言ってくれました。

私の気持ちは、「どんなときも、みんなと一緒に、参加したいのです。」私が体育の授業に参加するとき、京ちゃんルールがあるように、みんなの工夫やアイデアがあれば、どんなこともできるように思います。

何かを決める時や、つくる時、障害をもつ人もふくめて、障害のある人に考えを確認して、決めていくことが大切だと思います。私は参加できないゲームもあったけど、Mくんが、たくさん私の気持ちを聞いてくれたので、うれしかったです。もっともっと、みんなとお話ししたり、えんりょせず私の目を見て話しかけてほしいです。

京香さんの「スピーチ」のあと、とくに名古屋城のエレベーターをめぐり、生徒から賛否両論の意見が飛び交ったという。私もこれを読んで、多くのことを考えさせられ、反省しなくてはと思い知った。ユニバーサルデザインというと、なにか遠い話のように聞こえるが、京香さんのスピーチに実感が込められている。「どんなときも、みんなと一緒に参加したい」という言葉が、なんとも心にせまる。これまでクラスの仲間たちは、工夫やアイデアを出し、一緒にやってきた。フェスティバルの巨大迷路は、残念ながら、そんな工夫がすこし足りなかった。

私もフェスティバルに参加して、京香さんの「居場所」と活躍ぶりを確認した。だが、巨大迷路の会場に行き、京香さんの思いを恥ずかしながら感じとることができなかった。反省しなくてはならない。ユニバーサルデザインを進めていくためには、障害をもつ人の意見を聞きながら、納得いくまで工夫とアイデアを出しあうことが必要なことを学んだ。

(2017年12月19日)

